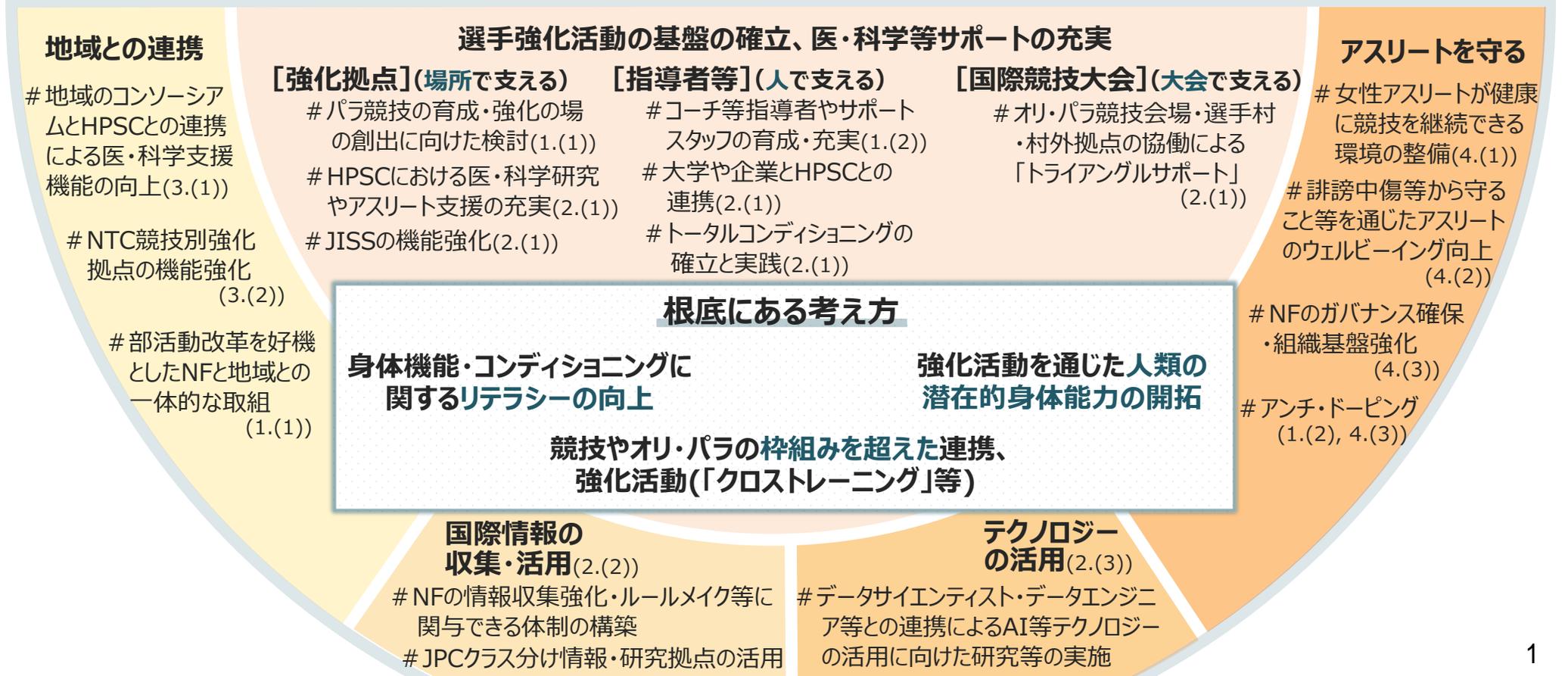


これまでプラン等に基づいて実施してきた取組は、近年のオリ・パラ大会での日本選手団の輝かしい結果に一定の役割を果たしてきた。



アスリート・センタードの視点から、これまでの取組・これからの取組を再整理
スポーツ庁・JSC・JOC・JPSA・JSPOの役割分担と連携を通じ、より効果的・効率的な協働を実現
一体的な取組によりアスリートを支援組織間・活動拠点間でシームレスにサポート



 東京大会までの取組の成果や課題を踏まえ、2021年12月に「持続可能な国際競技力向上プラン」を策定。その後の北京冬季大会・パリ夏季大会の成果や課題を踏まえ、2025年3月にプランを改定。

基本的な方向性

近年のオリ・パラ大会における好成績を一過性のものとせず、かつ、少子化が進む我が国において持続可能な国際競技力向上を図っていくためには、

- ✓ **より多くの優れた能力を有するアスリートを見出し、育成・強化する仕組みを構築**するとともに、
- ✓ **先端技術の積極的な活用等を通じたスポーツ医・科学、情報等の知見に基づく質の高いトレーニング環境の整備等**を行い、
- ✓ **アスリートを支援組織間・活動拠点間でシームレスにサポート**していく

ことにより、**全てのアスリートが自らの持つ可能性を発揮することができる環境の実現**を図ることが求められる。

取組の根底にある考え方

「何に取り組んでいくか」の前提として、以下を根底にある考え方としながら、スポーツ界が一体となってより効果的な国際競技力の向上に向け取り組んでいく。

- ✓ **身体機能及びコンディショニングに関するリテラシーの向上**
⇒アスリート自身やアスリートを支える人々が身体及びコンディショニングに関するリテラシーを向上させていくことが、サポートの最適化・パフォーマンスの向上に繋がる。
- ✓ **競技やオリ・パラの枠組みを超えた連携、強化活動**
⇒競技やオリ・パラの枠組みを超えた連携・交流が、トレーニング方法の多様化や新たな可能性の発見、知見の共有に繋がる。
- ✓ **アスリートの強化活動を通じた人類の潜在的身体能力の開拓**
⇒アスリートが自身の持つ能力を向上させていくことは、ひいては人類の持つ潜在的身体能力をも開拓することに繋がる。

取組内容の評価等

本プランに基づく取組については、引き続き、**オリ・パラ大会等における競技成績などを踏まえてその成果を検証し、随時見直し**を実施する。

特に、**2026年の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会**は、日本中がトップアスリートの躍動する姿を直接感じることでできる絶好の機会であることから、2028年のロス大会に向けた**最重要マイルストーンの一つとして位置づけ、総力を挙げて選手強化活動を促進・支援**する。

また、**国民スポーツ大会**は、地域におけるスポーツ環境の整備や競技力の向上に貢献してきたが、引き続き**我が国の持続可能な国際競技力向上の基盤**ともなるよう、関係機関と連携した改革に取り組む。

1. アスリートの強化活動の基盤の確立・強化

(1) 戦略的な選手の発掘・育成・強化

- ① 強化戦略プランの実効化支援
 - ・協働コンサル等、中央競技団体(NF)の強化戦略プランの実効化に向けた多面的な支援
- ② 強化戦略プランに基づくアスリート育成パスウェイの構築
 - ・**タレント発掘・育成におけるNFと地域との連携強化**
 - ・**部活動改革を好機としたNFによる地域と一体となった発掘・育成**
 - ・**パラ競技におけるアスリートの育成・強化の場の創出に向けた検討**
- ③ メダル獲得最大化のための重点支援
 - ・メダル獲得可能性が高い「**重点支援競技**」の選定

(2) コーチ等指導者やサポートスタッフの育成・充実

- ・**ハイパフォーマンスディレクター等の役割の明確化**、海外からの招へいを含む優秀な人材の配置支援
- ・クラシファイアや競技パートナー等、パラ競技の特性を踏まえたコーチ・スタッフの育成・配置支援
- ・公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO)、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)、公益財団法人日本パラスポーツ協会(JPSA)日本パラリンピック委員会(JPC)の**連携と体系化**
- ・**国と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)等との連携によるコーチ・医療従事者へのドーピング防止教育の推進**

(3) 競技やオリ・パラの垣根を超えた取組の促進

- ・強化活動における競技やオリ・パラの垣根を超えた「**クロストレーニング**」等の促進

2. アスリートへのスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

(1) ハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)における大学や民間企業等とも連携したスポーツ医・科学、情報等の研究・支援の充実と人材育成

- ① トータルコンディショニングの確立と実践
 - ・**アセスメント結果の活用等による分野融合型のアスリート支援体制構築**
- ② スポーツ医・科学研究の推進と人材育成
 - ・大学や民間企業とHPSCとの連携によるスポーツ医・科学研究の推進と人材育成
 - ・**国立スポーツ科学センター(JISS)の機能強化及びそのための施設改修の検討**
 - ・パラ競技や冬季競技における用具等の機能向上に係る研究の実施
- ③ オリ・パラ大会時のアスリートサポートの深化
 - ・**オリ・パラ大会時の、競技会場－選手村－村外拠点の協働による「トライアングルサポート」の強化**

(2) 国際情報収集の強化及び情報の効率的・効果的な活用

- ・**各NFにおける国際情報収集の強化及び国際的なルールメイク等に関与できる体制の構築**
- ・独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)における国際情報の収集・分析、JOC・JPC・NF等への提供
- ・JPCクラス分け情報・研究拠点の充実及びパラ競技における専門人材育成

(3) 強化活動を支えるツールとしてのAI等テクノロジーの活用

- ・**HPSCとデータサイエンティストやデータエンジニア等との連携による、AI等テクノロジーの強化活動における活用に向けた研究の推進**

3. アスリートが居住地や活動拠点等にかかわらずハイパフォーマンスサポートを受けられる環境の実現

(1) 地域における競技力を支える体制の整備

- ・地域のスポーツ医・科学センター、大学、地方公共団体、民間企業等から成るコンソーシアムとHPSCとの連携を通じた地域におけるスポーツ医・科学支援機能の向上

(2) ナショナルトレーニングセンター(NTC)競技別強化拠点の機能強化

- ・HPSCパッケージの活用等を通じたサポートの充実
- ・NFの強化戦略プランに基づく拠点機能の整備

4. アスリートがライフステージや外的要因に左右されず競技活動に専念できる環境の構築

(1) 女性アスリートが健康に競技を継続するための環境整備

- ・妊娠期・産後のトレーニングや育児サポート等の競技復帰支援
- ・各年代における女性アスリートの健康課題に係る地域での支援機能の向上

(2) 誹謗中傷等からアスリートを守る体制の構築等を通じたアスリートのウェルビーイングの向上

- ・JOC・JPSAの協働によるSNS上の誹謗中傷等事案に係る啓発活動及びアスリートへの伴走支援
- ・セーフガーディングオフィサーやウェルフェアオフィサー等の人材育成
- ・アスリートのウェルビーイング向上に向けた心理面、メンタルトレーニングを含むサポート

(3) NFにおけるガバナンス確保及び組織基盤の強化

- ・スポーツ団体ガバナンスコードに基づくNFのガバナンスの確保
- ・JADA等と協働したドーピング防止教育の推進
- ・NFの自律的な運営に向けた組織基盤強化の取組の促進とオリ・パラ競技団体の連携強化